

# 野上小だより

九重町立野上小学校

No. 19

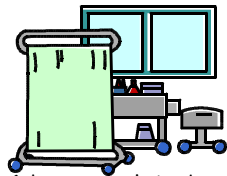
\*家庭配布用  
平成31(2019)年1月23日

校長：安達昌利



「のびる がんばる みとめあう野上っ子」

## 保健室の先生が来てくれるようになりました



前任の退職後、町教委や教育事務所がいろいろな方に声をかけ代替を探してきていました。そのおかげで、本日より松野万寿美さんが勤務することとなりました。松野先生は、3年前に野矢小で定年退職された養護教諭で、退職後の予定がある中、野上小の子どもたちのためにと学校への復帰を決めていただきました。

3学期、ケガや体調不良の時、校長対応は不安があったと思いますが、これで子どもたちは安心して保健室に行けるとと思います。保護者の皆様にもご心配をおかけしました。

## 子どもたちは上達がさすが早い

5, 6年生がスキー教室に行ってきました。6年生は1年ぶりのスキーだったにもかかわらず、午前中のレッスンを受け何度か滑降しただけで、午後からは一般ゲレンデでそれなりに滑ることができるようになってしまうとは、子どもたちは飲み込みが早いです。一番上のゲレンデから滑り降りる子もいました。5年生はみっちり基本練習をして、午後はストックを持たずにゲレンデを滑降できるまで上達しました。



町にスキー場があるおかげで、いろんな配慮で安く利用できる環境にあることは、他地域の学校からしてみれば恵まれていることと思います。九州では気軽に経験できるスポーツではないですから。

## ですが凧揚げはむずかしかったみたい



1年生が生活科の教材で作った凧を揚げていました。運動場にい



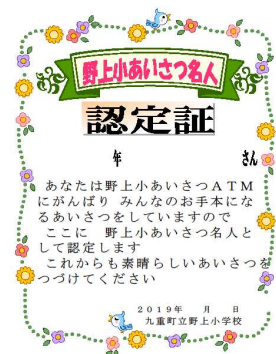
い風が吹いていたのですが、風にのせて糸を繰り出して高く揚げるという技術はやはりそう簡単にはいかず、運動場を走りまわって体はポカポカになったようです…。電線やら広場やら、いろいろな規制があって、最近、子どもたちの凧揚げを見かけなくなりましたね。先日、朝ドラで「福笑い」の場面がありました。コマ回しや双六とともに1960年代の正月の遊び定番だった記憶があります。

あと4、50年後に、今の子どもたちが思い出す正月の風景は何でしょうね。

## めざせ! あいさつ名人

2学期、あいさつがとてもよくなったと感じていたけれど、子どもたち自身のアンケートではあまり伸びていなかったということは前回お知らせしました。

もっと自分に自信をつけさせたい思いと、さらにあいさつはよくなるという期待から、『あいさつ名人』の取組を始めました。私にすればよいということではなく、いつでも誰にでも「明るく、立ち止まって、目を見て」ができる子を認定していくよと話しています。職員だけでなく子どもたちから、地域からの情報もお待ちしています。みんなが名人にと願っています。



~学校HP随時更新しています。PC、スマホで「九重町立野上小」と検索すれば観ることができます。